

パネル発表「動物飼育を通して生命を実感する保育を目指して」

—なぜ 幼稚園で飼育動物が必要なのか—

辰巳正信

言葉以外のコミュニケーションで子ども達の生きる意欲を培う。

【動物とのノンバーバルコミュニケーション】
〈セラピー効果の例・・・朝の餌やり〉

登園しにくい子どもが家庭から持ってきたキャベツやパンなどをヤギやウサギにあげると動物たちは喜んで食べる。



言葉のやりとりはないが、「僕の持ってきたキャベツを食べてくれた」という喜びを、ムシヤムシヤ食べる動物から感じとる。



自分のしたことが他者の役に立てる自分に自信が持てる。



意欲的にニコニコと保育室にいけるようになった。

〈自己有能感の例・・・ヤギ小屋の掃除〉

生き物は食べたら排泄する事は人間もヤギも一緒ということを知る。



草食動物の糞はほとんど匂わない事を知る。おしっこが臭い。



自分の家ではお母さんがトイレの掃除をしてくれていることに感謝する。



掃除後に餌を入れるとおいしそうに食べる。「メー」となくと、「ありがとうって言う」「おいしいよって言ったよ」

【動物を通して体験させたいことの3つ】

①経験不足を補う ②バーチャルでない現実を感じる ③生死観を感じる

【動物を通して育てほしいことの3つ】

①地球に対する畏敬 ②他者理解 ③感謝と思いやり

これらのことを、いろいろな幼稚園生活の中での経験から獲得していく。

生き物を飼っている最終的な意味は、『死を体験する事』。

そしてその時に、まわりの大人たちがどのような姿を子ども達に見せるかが大切です。

飼育動物だけでなく、植物や水・土などから五感を通して生きていることへの感謝を感じる。

【園内環境】

動物は、ヤギが2頭、ウサギが4頭、チャボが6羽、セキセイインコ3P.A、文鳥2P.A、ジュウシマツ4P.A。それ以外に金魚やザリガニ、ダンゴムシなど、いろいろ。

園内には、リンゴやモモ、サクランボ、木イチゴ、アーモンド、カンキツ類、ドングリなど20種類以上の実のなる木がある。

園内に川が流れ、春から秋にかけては、パンツ1枚で水遊びに興じる子どもの姿が見られる。

伝え合いと育ち合い（動物や植物の育ちをみんなを感じる）

親の育ち ⇔ 保育者の育ち ⇔ 子どもの育ち（お互いの育ち合い）

☆『いただきます』の意味 「あなた方の命を頂きます」

- ・毎日の食事で手を合わせる。
- ・感謝の気持ちで食べる。

（学校法人たつみ学園長池幼稚園園長）

